

ハート・オブ・ゴールド通信

vol. 3

2000年2月25日発行

発行／編集 ハート・オブ・ゴールド事務局

(本部:086-284-9700 東京事務所:03-3575-5196)

アンコールワット国際ハーフマラソン'99

アンコールワット国際ハーフマラソンは今年で4回目を迎え、99年12月5日ハート・オブ・ゴールド代表の有森裕子、副代表のローレン・モラーが参加して開催された。前日の「ウォーカー・ズエイド」も含めたエントリーは、過去最多の19カ国1238人。12月とはいえ南国の強い陽さしのなか、沿道では多くの人たちが声援を送り、また大会運営も地元カンボジア陸連、カンボジアオリンピック委員会のメンバーを中心となり、すっかりカンボジアに定着したイベントとなった。

なお、大会出場者のエントリー費用の全額4,292US\$に加え、ハート・オブ・ゴールドから会員の会費、団体・個人からの寄付の中から30,000US\$を、カンボジア赤十字、赤十字国際委員会、カンボジアトラスト、カンボジア身障者陸上競技連盟へ義足代として、さらに大会実行委員会へ大会運営協力金として350万円を贈った。



アンコールワット国際ハーフマラソン'99



大会テーマ:対人地雷で手足を失った犠牲者・子供たちに愛の義足を!

公認	:国際マラソン・ロードレース協会(AIMS)
主催	:カンボジア陸上競技連盟、カンボジアオリンピック委員会、ハート・オブ・ゴールド
主管	:カンボジア陸上競技連盟
運営	:アンコールワット国際ハーフマラソン組織委員会・実行委員会
後援	:カンボジア王国政府、シェムリアップ州、観光省、文化芸術省、在カンボジア日本大使館、在日本カンボジア政府観光局 アジア陸上競技連盟、日本陸上競技連盟、カンボジア赤十字、赤十字国際委員会、ユネスコ・カンボジア 国際人権ネットワーク、AMDA、日本医師ジョガーズ連盟、日本カンボジア協会、日本労働組合総連合会 国税労働組合総連合会、産経新聞、サンケイスポーツ、フジテレビジョン、ニッポン放送
特別協賛	:三井
協賛	:明治乳業、かねふく、全日空、勝英自動車学校、Chai、インターナショナル・ビジネスサービス、ANKORBEER

~1999年ザンビアマラソン報告~

ザンビア国在住 ハートオブゴールド会員

山本秀樹

ザンビア国でハートオブゴールド協賛のマラソンが行われましたので紹介します。

ザンビアといわれてもピンとこない方は多いと思います。私も、1998年12月から仕事の関係(JICA:国際協力事業団)で当地に住んでいます。ザンビアは南アフリカより少し北に位置する南部アフリカの内陸国です。主要産業は銅鉱石の生産で、10円玉の原料もザンビアから来ているようです。ザンビア自体は平和ですが周りにはアンゴラ、モザンビークといった地雷の被災者を抱える国があり、これらの国々からは地雷の被災者を含む難民が依然として多数来ています。ハートオブゴールドは東京オリンピックの開会式のあった10月10日の体育の日に記念して結成されました。このザンビア国にとっても東京オリンピックというのは歴史に残るイベントなのです。ザンビアは東京オリンピックの閉会式の行われた1964年10月24日に独立をしました。開会式の行われた10月10日には英國領の北ローデシアとして入場行進をし閉会式にはザンビアとして入場行進をしました。日本とザンビアの間には7時間の時差がある関係でザンビアの国旗が最初にあがったのは本国でなく東京だったそうです。1999年は独立35年ということで、ザンビアの首都ルサカ市のチャワマ(Chawama)という貧しい人々が住む地区で、独立記念行事のひとつとして住民主催の手弁当のマラソンが行われました。

ザンビアでもマラリア、エイズ、コレラ、結核で多くの人が苦しんでいます。とくに、エイズが大人の4人に1人が陽性というぐらい深刻です。今回は、これらの病気で苦しんでいる人を救おうということで募金活動の一環として行われました。当日は約150名のランナーが参加して行われ、参加料1000 kwacha(日本円で50円)プラスカンパということで、参加料の合計10万kwachaが地域での救急車を購入する資金として積み立てられました。ハートオブゴールド本部から資金協力があり、役員・入賞者へのTシャツ、賞状の印刷、マーチングバンドを呼ぶ費用等に使われました。有森さんから寄せられたメッセージが紹介された後、ルサカ州保健局のDr. Kumuenda女史のスタートの合図で、レースは始まりました。日本人は私を含めて3人が参加し全員が完走しました。負傷者もなく(1名ほど脱水症状でレース後点滴を受けたものもいましたが・・すぐに元気になっていました)無事にレースは終了しました。また、AMDAザンビア事務所からも3人の参加があり、現地職員のチサンガ氏は35歳以上の部門で見事優勝しました。入賞者には実行委員会およびAMDA・ハートオブゴールドの賞状をAMDA駐在代表のマンボさんから手渡されました。エイズ感染者である事を公表した人々の会の代表でUNV(国連ボランティア)でもあるマサニンゲ氏も完走し、表彰式の時にひときわ大きな拍手を浴びていました。ハートオブゴールドからの金銭的支援以上に遠い日本から協力があったという心理的なサポートは非常に喜ばれていました。また今回のイベントは現地の新聞にも紹介されました。

今回のマラソンはハートオブゴールドのアフリカでの第一歩として行われました。マラソンの参加者・サポーターの方も、このマラソン大会で何かをつかんでくれたと思います。

今後、アンコールワット国際ハーフマラソンのように日本から多くのランナーの方が参加されるようなイベントとして発展してほしいと祈ります。



新しい活動を紹介します

～子どもたちの希望と勇気のために～

《マイ プロジェクト》

ハート・オブ・ゴールド本部事務局 田代 邦子

長年の内戦による混乱から急速に復興が進むカンボジア。ほとんどの知識人を殺されたカンボジアでは、今、新時代を担うカンボジア人自身が、草の根の活動によりカンボジアの復興を担い始めています。シェムリアップにある「スナダイ・クマエ」の代表であるメアス・トミー氏もその中の一人です。

この団体は、1995年に発足したカンボジア人主体のNGO(非政府ボランティア団体)で、クメール語で「カンボジア人の手で」という意味です。活動内容は、学校建設、外国語教育(英語、日本語)、アンコールワットの清掃、地方農民の農業技術及び生産性の向上、孤児院と職業訓練所の建設など多方面にわたっています。しかし、活動資金は十分ではなく日本からの支援が強く望まれています。

内戦によって生じた10万人ともいわれている孤児と、その後も生活苦から生じる孤児が増え続けており、今やカンボジアの深刻な問題となっています。近代化に伴い貧富の格差がますます広がり、地方農民の若年少女売春問題も暗い影を落としています。彼らに生活できる場所が与えられ、教育が施されるならば、将来自立した人間としてカンボジアの国造りに参加できる人材を育成する事ができます。昨年から「スナダイ・クマエ」も孤児院を開設し、4歳～16歳までの孤児23人が日本人ボランティアの佐藤なおさんと共に生活しています。子どもたちは学校に行きながら、野菜を作り牛を飼い、日本語を学び、家作り(今孤児院が建設中)を手伝い、力強く生きています。

《ハート・オブ・ゴールド》としては、マラソン大会と共に、カンボジアの子どもたちの希望と勇気のために、新しい活動を始めたいと準備していましたので、昨年カンボジアを訪れた機会に、代表・有森裕子、副代表・ローレン・モラーの二人が孤児院を訪問し、孤児のため、カンボジアの未来のために活動しているメアス・トミー氏にお目にかかりました。こちらからは絵本と日本の子どもたち(坂戸中学校・平福小学校)からのプレゼント(手紙や文房具)を渡し、スナダイ・クマエ孤児院の子ども達からは、日本語の歌と絵をプレゼントされ、温かい交流の時間を持つことが出来ました。

また、孤児の援助と共に、その原因である地方農民のための支援も大切な事と考えます。

今後、《ハート・オブ・ゴールド》としてはこのような自立を目指しているローカルNGOと協力して、彼らの国づくり、人づくりの活動に参加させて頂く事で、われわれも希望と勇気を分かち合えるよう進めていく所存です。事務局としても、一方的に援助するのではなく、相互交流の中で、パートナーとして関わり、最終的には自立援助の企画を考えていきたいと計画しております。(マイ プロジェクトーMy Projectー)

これらの活動に皆様が参加する事で、真の国際交流、国際理解、国際協力に携われまた、相互理解、相互信頼を築く事で、平和な21世紀を創っていく事を目指していきたいと思います。

どうぞ、マラソン同様この活動にもご協力、ご支援頂けますようお願い申し上げます。

*尚、今回お送りしている通信で、パンフレットを同封させて頂いております。是非ご覧ください。

～ハート・オブ・ゴールド学生会発足！～

世界各地で内戦や紛争が起こっている今、僕達と同世代の子供達が苦しみ、精一杯生きようとしています。両親や友人を失い、夢を持てない子供達がたくさんいます。そんな子供達とスポーツを通して体を動かす事の楽しさ、色々な人々とふれ合う事の喜びを共有したい！そんな心を持った中学生・高校生の会がハート・オブ・ゴールド学生会です。活動は、学校でのパネル展開催、合同講演会、スポーツ大会などのイベントの参加などを通じて、この活動を理解し、協力してもらうなど、中学生・高校生にもできる活動を考えています。個人だけでなく、学校での部活や地域クラブでの参加も大歓迎です。若さあふれる体を使い、出来る事はたくさんある！僕達と一緒に活動しましょう！

法政大学第一高等学校 高畠 淳一

お知らせ

学生会では第1回の活動として、カンボジアへのスタディーツアーを企画しました。期間は、今年の3月24日～3月30日です。興味のある方は、本部(086-284-9700)までお問い合わせ下さい。